

法政大学大学院
社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程

研究業績目録

2023年3月31日現在

目次

加藤 徹郎	(1)
高橋 誠一	(4)
高橋 賢次	(6)
山田 唐波里	(7)
松下 峻也	(9)
鰐部 行崇	(11)
山口 敬大	(12)
木暮 美菜	(13)
余 偉	(17)

ふりがな 氏 名	かとう てつろう 加藤 徹郎
専攻	メディア論, 身体論, 歴史社会学
平成14年	年 3 月 社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年 月 学 博士学位取得 (大学)
所属学会	マスコミュニケーション学会, 日本社会学会

学歴	
平成10年	3月 明治学院大学法学部法律学科卒業
平成11年	4月 法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 修士課程 入学
平成14年	3月 法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 修士課程 修了
平成14年	4月 法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 博士後期課程 入学
平成20年	3月 法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 博士後期課程 単位取得退学
職歴	
平成15年	4月 法政大学社会学部ティーチングアシスタント (「メディア分析実習」担当、16年3月まで)
平成17年	4月 法政大学社会学部ティーチングアシスタント (「メディア社会学入門」担当、19年3月まで)
平成19年	4月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「映像表現法」担当、20年7月まで)
平成19年	4月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「マス・コミュニケーション論」担当、28年3月まで)
平成19年	4月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「比較マスコミ論」担当、20年7月まで)
平成19年	9月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「映像表現法演習」担当、21年3月まで)
平成20年	4月 法政大学社会学部兼任講師 (「演習3」担当、21年3月まで)
平成20年	4月 法政大学社会学部兼任講師 (「歴史社会学Ⅰ・Ⅱ」担当、22年3月まで)
平成20年	9月 十文字学園女子短期大学 社会情報学部兼任講師 (「メディア文化研究」担当、25年3月まで)
平成21年	4月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「メディア表現総論」担当、21年7月まで)
平成21年	9月 十文字学園女子短期大学 社会情報学部兼任講師 (「マス・コミュニケーションの社会心理学」担当、24年3月まで)
平成22年	4月 法政大学社会学部兼任講師 (「外書講読Ⅰ・Ⅱ」担当、23年3月まで)
平成23年	4月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「ICT論」担当、23年7月まで)
平成23年	4月 法政大学社会学部兼任講師 (「コンピュータ入門／プログラミング入門」担当、 継続中)
平成23年	4月 法政大学社会学部兼任講師 (「メディア分析入門」担当、24年3月まで)
平成23年	9月 淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「経営情報コミュニケーション論」担当、24年3月まで)
平成24年	4月 法政大学社会学部兼任講師 (「コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」担当、25年3月まで)

平成24年	9月	文教大学社会情報学部兼任講師 (「メディア・リテラシー」担当、 継続中)
平成25年	4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「情報基礎・応用演習」担当、27年3月まで)
平成26年	4月	淑徳大学人文学部兼任講師 (「情報処理法・情報管理法」担当、 継続中)
平成26年	4月	恵泉女学園大学人間社会学部現代社会学科兼任講師 (「コミュニケーション論」担当、30年7月まで)
平成26年	9月	文教大学社会情報学部兼任講師 (「情報社会のリテラシ」担当、 継続中)
平成29年	3月	文教大学社会情報学部兼任講師 (「ゼミナールA・B」担当、令和元年3月まで)
平成29年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「プログラミング初級」担当、 継続中)
平成29年	9月	法政大学社会学部兼任講師 (「プログラミング中級(ウェブ・プログラミングB)」担当、令和4年3月まで)
平成30年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「ウェブメディア論 I・II」担当、令和元年3月まで)
平成30年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「マス・コミュニケーション論」担当、令和元年7月まで)
令和元年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「デジタル情報環境論・デジタル情報環境分析」担当、令和2年3月まで)
令和2年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「マス・コミュニケーション論」担当、令和4年7月まで)
令和2年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「演習2」担当、令和3年3月まで)
令和2年	4月	法政大学社会学部兼任講師 (「演習3」担当、令和5年3月まで)

著書

藤田真文・岡井崇之編『プロセスの見えるメディア分析入門』世界思想社、2009年(第2章「筋書きのないドラマの「語り」を探る—スポーツダイジェスト番組『熱闘甲子園』における物語論』を分担執筆、pp11-36)

金井明人・土橋臣吾・津田正太郎編『現代社会研究叢書 10 メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版局、2013年(第4章「文芸的公共圏としてのレコード喫茶の生成過程—戦前の複製芸術文化を中心に」を分担執筆、pp103-128)

武田 徹・藤田 真文・山田 健太 監修『ジャーナリズム辞典』三松堂、2014年(「パワーエリート」「ブロードサイド・バラッド」など9項目を分担執筆)

小林 直毅編『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局、2018年(第2章「生活情報番組における原発震災の「差異」と「反復」」を分担執筆、pp59-96)

西山 哲郎・谷本 奈穂編『身体化するメディア／メディア化する身体』風塵社、2018年(第7章「一九三〇年代、「体力」時代の身体-筋肉表象—若木竹丸『怪力法 並に 肉体改造・体力増進法』を中心事例として」を分担執筆、pp183-213)

学術論文(うち査読付き 2本)

『身体の異端史—近代日本の「健康法」における「腹力呼吸法」の意義—』修士学位论文、2002年

「〈健康関連広告〉の内容分析—身体表象についての—考察—」『法政大学院紀要』第52号、2004年

「文芸的公共圏としてのジャズ喫茶の生成過程—1930年代の複製芸術文化を中心に—」法政大学社会学部科研費プロジェクト「公共圏の創成と規範理論の探求—現代的社会問題の実証研究を通して—」、2010年

「メディア・公共圏・オーディエンス—マス・コミュニケーション効果論からみた‘大衆的公共圏’の検討—」法政大学社会学部科研費プロジェクト「公共圏の創成と規範理論の探求—現代的社会問題の実証研究を通して—」、2011年

「生活情報番組における「放射」報道の変化—報道番組アーカイブのメタ・データよりみる人為時事性の考察—」法政大学サステイナビリティ研究所『サステイナビリティ研究 Vol.5』、2015年

「3月ジャーナリズムの中で、ニュースは何を話し・語り・伝えてきたのか—東日本大震災・テレビ報道アーカイブにおけるメタデータの語用論—」日本大学法学部『ジャーナリズム&メディア 第10号』、2017年

「テレビドラマにおける若者風俗の社会史的検討—『今日から俺は!!』にみる“80年代不良表象”の批評性—」淑徳大学人文学部『研究論集 第7号』、2022年

「協働学習の主体における正統的周辺参加～実践コミュニティとしてのSA制度～」
淑徳大学人文学部『研究論集 第8号』、2023年

学会発表・招待講演

「近代日本の〈健康法〉における〈ハラ呼吸法〉の生成と迷走 —身体の「中心」をめぐって—」第50回関東社会学会大会、於法政大学、2002年

「『健康関連広告』の内容分析—その身体表象についての—考察—」日本マス・コミュニケーション学会、於長崎シーボルト大学、2003年

「近代日本の「丹田呼吸」、その歴史的検討と身体論的意義について」第78回日本社会学会大会、於法政大学、2005年

「テレビCMにおける身体感覚表象の分析—曖昧な「感覚」を伝える表現技法についての考察—」日本マス・コミュニケーション学会、於東京国際大学、2010年

「身体表象の「内」と「外」～1930年代のボディビルダー、若木竹丸を事例として～」カルチュラル・タイフーン 2017 於早稲田大学、2017年

(共同報告)ワークショップ「テレビが記録した『震災』『原発』の3年 — 震災関連放送アーカイブの可能性と課題—」日本マス・コミュニケーション学会、於東洋大学、2014年

(共同報告)「“3月ジャーナリズム”化する震災TV報道」日本大学新聞学部シンポジウム、於日本大学、2017年

研究報告書・翻訳など

秋季研究会ワークショップ報告書「テレビが記録した『震災』『原発』の3年 — 震災関連放送アーカイブの可能性と課題—」日本マス・コミュニケーション学会『マス・コミュニケーション研究 87(0)』、2015年

特記すべき事項

ふりがな 氏 名	たかはし せいいち 高橋 誠一
専攻	社会学、国際社会学
2008年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、移民政策学会

学歴	
2004年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2006年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程入学
2008年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2008年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学
2017年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
職歴	
2009年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当、2011年3月まで)
2010年 4月	日本学術振興会特別研究員(DC2)(2012年3月まで)
2012年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当、2013年3月まで)
2012年 10月	法政大学サステナビリティ研究機構リサーチアシスタント(2013年3月まで)
2013年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「政策研究実習」担当、2014年3月まで)
2013年 4月	川崎市外国人市民施策専門調査員(現在に至る)
2014年 4月	法政大学大学院グローバル化と移民問題研究所特任研究員(現在に至る)
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、2017年3月まで、「国際社会学Ⅰ」担当、2017年9月まで)
2017年 9月	法政大学社会学部兼任講師(「国際社会と民族」担当、2018年3月まで)
2018年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、現在に至る)
2019年 4月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科非常勤講師(「社会学と社会システム」担当、現在に至る)
2019年 4月	東京家政学院大学非常勤講師(「多文化共生」担当、現在に至る)
2021年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「国際社会と民族」担当、2022年9月まで)
2021年 4月	法政大学キャリアデザイン学部兼任講師(「基礎ゼミ」担当、2021年9月まで)
2022年 4月	明治学院大学教養教育センター非常勤講師(「内なる国際化論A」「内なる国際化論B」担当、現在に至る)
2022年 9月	東京家政学院大学非常勤講師(「比較文化論」担当、現在に至る)
2023年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「外書講読」担当、現在に至る)

著書
宮島喬・吉村真子編『現代社会研究叢書7 移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局、2012年(第9章「クルド問題をめぐる公共圏とその変容——在外クルド人の展開とトルコ国内の変化に着目して」を分担執筆、pp.229-252)
渋谷淳一・本田量久編『21世紀国際社会を考える——多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年(第Ⅱ部第5章「移民の統合をめぐる問題——イギリスを中心に」を分担執筆、pp.126-135)
学術論文(うち査読付き1編)
「『クルド・ネイション』の構築と『在外クルド人』——統合と分化／差異化をめぐる諸相」修士学位論文、2008年
「ネイションとインターネット」法政大学大学院『法政大学大学院紀要』第62号、2009年、pp.89-98
「〈他者〉の統治とシティズンシップ——包摂／排除のメカニズムとそのグレーゾーンをめぐる」法政大学社会学部学会『社会志林』第57巻4号、2011年、pp.253-268
「移民の統合と排除——イギリスにおける市民的統合の現状、課題と限界」『大原社会問題研究所雑誌』733号、2019年、pp.40-62
「イギリスにおける実質的シティズンシップの保障とその今日的課題——ボランティア・コミュニティ組織をめぐる政治／政策に着目して」『移民政策研究』第12号、2020年、pp.97-111(査読あり)
学会発表・招待講演
「1980年代以降におけるクルド人の『ネイション』形成に関する一考察——脱領域的な『ネイション』の形成と言語的多様性に着目して」日本社会学会第81回大会、於東北大学、2008年11月
「クルド人の〈不確か〉なナショナル・アイデンティティに関する考察——ネイションをめぐる主観的自己理解／客観的定義の二重性と再帰性」日本社会学会第82回大会、於立教大学、2009年10月
「ドイツにおける在外クルド人のアイデンティティ理解と権利要求——ナショナル・アイデンティティの境界と領域をめぐる」日本社会学会第83回研究大会、於名古屋大学、2010年10月
「ネオリベラルな統合モデルにおける移民コミュニティの位置づけに関する一考察——イギリスにおけるクルド人コミュニティを事例として」移民政策学会2011年度冬季大会、於名古屋市立大学、2011年12月
研究報告書・翻訳など
【報告書】「『クルド人』と『公共圏』——『在外クルド人』の展開と分断横断的なメディア空間の登場」(科学研究費補助金研究成果中間報告書、船橋晴俊編『公共圏の創成と規範理論の探究——現代的社会問題の実証的研究を通して 論文集(Ⅰ)』、研究代表者:船橋晴俊、2008年、pp.101-117)
【報告書】「トルコにおけるマイノリティ問題としての『クルド問題』——EU加盟へむけた『国内改革』と残された課題」(科学研究費補助金研究成果中間報告書、吉村真子編『グローバル化における移民・マイノリティ・公共圏』、研究代表者:船橋晴俊、2010年、pp.138-148)
【調査報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』川崎市、2015年
【調査報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査(インタビュー調査)報告書』川崎市、2016年
【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著、佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店、2016年(第5章「同化への回帰か?——フランス、ドイツ、アメリカにおける移民をめぐる視座の変化とその帰結」および第7章「分析のカテゴリーと実践のカテゴリー——ヨーロッパの移民諸国におけるムスリムの研究に関する一考察」を担当、pp.200-231, 288-301)
【調査報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』川崎市、2020年
特記すべき事項

ふりがな 氏名	たかはし けんじ		
高橋 賢次			
専攻	理論社会学, コミュニケーション論		
社会学	2011年	3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会, 社会学研究会		

学歴	
2009年	3月 法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2011年	3月 法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2021年	3月 法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
年	月
職歴	
2012年	4月 法政大学社会学部T・A(「社会学入門B」担当, 2014年3月まで)
2015年	4月 法政大学社会学部兼任講師(「社会学理論A-I」担当)
2017年	4月 法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習I・II」担当, 2022年3月まで)
年	月

著書	
学術論文(うち査読付き1編)	
『「他者と共に在ること」を問いなおす—社会学の前提的構制における『他者問題』の検討』法政大学大学院社会学研究科修士課程学位請求論文.	
『「他者との倫理的関係」とは何か—J.バトラーにおける『倫理への転回』を手がかりとして』『現代社会学理論研究』第9号, 2015年, pp.67-80.	
学会発表・招待講演	
「J.バトラーにおける(倫理)の主題系に関する理論的考察—『他者に対する応答=責任』の社会的展開可能性を探る」日本社会学理論学会第7回大会, 於立命館大学, 2012年9月	
『「他者経験」への社会的接近—現象学的社会学の発生論的展開における『他者問題』の批判的再検討を起点に』日本社会学理論学会第9回大会, 於関西学院大学, 2014年9月	
『「ヘヴン」の向こう側へ—『世界の内に生きること』をめぐる文学的応答』日本現象学・社会科学会第39回大会, オンライン開催, 2022年12月	
『「あなた」の立ち現れなさをめぐって—人称的世界の成立とその応答的基盤を問いなおす』日本現象学・社会科学会第39回大会シンポジウム報告, オンライン開催, 2022年12月	
研究報告書・翻訳など	
特記すべき事項	

ふりがな 氏名	やまだ からはり 山田 唐波里
専攻	社会学
2015年 3月	社会学 修士学位取得(法政大学)
年 月	学 博士学位取得(大学)
所属学会	日本社会学会・関東社会学会・福祉社会学会

学歴	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
職歴	
2015年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当, 2016年3月まで)
2016年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2017年3月まで)
2017年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2018年3月まで)
2019年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当, 2020年3月まで)
2020年 4月	法政大学社会学部社会学科兼任講師(「基礎演習 I・II」担当, 2021年3月まで)
2021年 4月	法政大学社会学部社会学科兼任講師(「基礎演習 I・II」担当, 2022年3月まで)
2022年 4月	法政大学社会学部社会学科兼任講師(「基礎演習 I・II」担当, 2023年3月まで)

著書
学術論文(うち査読付き4編)
「人口を統制すること——日本社会における人口概念の展開」修士学位論文, 2015
「人口概念の歴史的基層——近代日本における人口概念の編成過程」『社会志林』64巻2号, 2017年, pp57-73(査読あり)
「近代的統治戦略としての〈均衡化〉——『人口方程式』の編成と政策論への導入」『社会学評論』70巻2号, 2019年, pp128-45(査読あり)

「『社会的なもの』と人口をめぐる議論——社会政策におけるマルサス人口論の位置づけ」『福祉社会学研究』18号, 2021年, pp129-50(査読あり)

「日本における人口政策規範の戦前から戦後への展開——人口政策としての『家族計画運動』前史」『社会志林』68巻1号, 2021年, pp1-43(査読あり)

学会発表・招待講演

「人口をめぐる知——日本社会における人口概念の展開」日本社会学会第88回大会, 於早稲田大学, 2015年9月

「近代的統治戦略としての〈均衡化〉——『人口方程式』の編成と政策論への導入」日本社会学会第90回大会, 於東京大学, 2017年11月

「『社会的なもの』と人口をめぐる議論——社会政策における近代的人口論の位置づけ」日本社会学会第92回大会, 於東京女子大学, 2019年10月

研究報告書・翻訳など

特記すべき事項

ふりがな 氏 名	まつした しゅんや 松下 峻也
専攻	社会学
2016年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本メディア学会、日本社会学会

学歴	
2014年 3月	法政大学社会学部メディア社会学科 卒業
2014年 4月	法政大学社会学研究科社会学専攻 修士課程 入学
2016年 3月	法政大学社会学研究科社会学専攻 修士課程 修了
2016年 4月	法政大学社会学研究科 研究生 (2017年3月迄)
2017年 4月	法政大学社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 入学
2020年 3月	法政大学社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 満期退学
職歴	
2020年 4月	法政大学社会学部兼任講師「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(現在に至る)
2020年 4月	法政大学経済学部兼任講師「社会学A・B」(現在に至る)
2020年 4月	法政大学社会学部兼任講師「ジャーナリズム論A」(2020年9月迄)
2021年 10月	法政大学社会学部兼任講師「メディア社会学特講(分析)」(現在に至る)
2022年 4月	法政大学社会学部兼任講師「専門演習Ⅱ・Ⅲ」(2023年3月迄)
2022年 4月	大東文化大学社会学部兼任講師「マスコミ史」(現在に至る)
著書	
松下峻也, 2018, 「核エネルギーのテレビ的表象の系譜学」小林直毅編著『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局.	
学術論文(うち査読付き 1編)	
松下峻也, 2015, 「メディア・アーカイヴとテレビ——テレビ・ドキュメンタリー研究の再考」『社会研究』第45号.	
松下峻也, 2016, 修士論文「核の表象と経験、そして記憶——テレビの記録と技術としてのアーカイヴ」法政大学社会学研究科(2016年度提出)	
松下峻也, 2018, 「アーカイヴ化されたテレビ番組が描くビキニ事件」『マス・コミュニケーション研究』第92号.	
松下峻也, 2019, 「記録としてのテレビ番組が描く『核と人間』」『社会志林』第66巻第3号.	
松下峻也, 2021, 「記憶と記録としての水俣病事件」『法政大学大学院紀要』第86号.	

ふりがな 氏名	わにべ ゆきたか		
鰐部 行崇			
専攻	マイクロファイナンス論、開発問題、ベーシックインカム研究		
社会学	2000年	3月	経営学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	国際開発学会		

学歴			
1989年	3月	早稲田大学法学部卒業	
2000年	3月	法政大学社会科学部経営学専攻修士課程修了	
2018年	4月	法政大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学	
職歴			
1989年	4月	株式会社東京銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行(2012年5月まで)	
2012年	6月	特定非営利活動法人日本リザルツ入職(2015年7月まで)	
2022年	4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門A」、2023年3月まで)	

学術論文(うち査読付き2編)	
修士学位論文「日本のベンチャーキャピタルのMBO(Management Buy-Out)活動に関する研究——英国のベンチャーキャピタルのMBOビジネスから学ぶ新たな方向性」、2000年	
論文「日本におけるマイクロファイナンス研究の課題と展望」アジア・アフリカ研究、第58巻第1号、2018年、pp22-49	
研究ノート「新自由主義に侵食されるマイクロファイナンス」アジア・アフリカ研究、第59巻第2号、2019年、pp28-51(査読あり)	
論文「グラミン銀行は何をもたらしたか——マイクロファイナンスによる成功者と多重債務化する人々」アジア・アフリカ研究、第62巻第2号、2022年、pp59-90(査読あり)	
学会発表・招待講演	
「バングラデシュBRAC研究報告」一橋大学秋季公開講座「小口金融が世界を変える～マイクロファイナンスの可能性～」、2014年10月	
「マイクロファイナンスを事例とした多国籍企業の活動に対する一考察——Lスクレアーを手掛かりに」、アジア・アフリカ研究所研究会、於法政大学、2018年11月	
「グラミン銀行は何をもたらしたのか——マイクロファイナンスによる成功者と多重債務化する人々」国際開発学会第32回全国大会、於金沢大学(オンライン)、2021年11月	
「マイクロファイナンスがもたらす問題——バングラデシュの実情を踏まえて」、アジアアフリカ研究所研究会、オンライン開催、2022年6月	
研究報告書・翻訳など	
【研究報告】「BRAC研修報告」特定非営利活動法人日本リザルツ(NGO海外スタディプログラム研修報告)、2014年	
論文翻訳及び解説「債務の罫と無条件のベーシックインカム: インドの経験からの教訓」アジア・アフリカ研究、第59巻第2号、2019年、pp52-57	

ふりがな 氏名	やまぐち けいた 山口 敬大
専攻	文学社会学
2019年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	関東社会学会, 日本社会学会, 日本メディア学会

学歴	
2017年 3月	愛知教育大学教育学部中等教育教員養成課程社会専攻卒業
2019年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2019年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学(現在に至る)
年 月	
職歴	
2020年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」, 2021年3月まで)
2021年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」, 2021年3月まで)
年 月	

著書	
学術論文(うち査読付きなし)	
「新本格ムーヴメントとその社会的背景—「ミステリ場」を通じた考察—」修士学位論文, 2019.	
学会発表・招待講演	
「「ミステリ場」の構造分析——新本格ムーヴメント成立の背景」日本社会学会第92回大会, 於東京女子大学, 2019年10月	
「ミステリの社会学——「ミステリ場」の成立とその形成過程」日本社会学会第93回大会, 2020年10月	
「松本清張のハビトゥスと文学実践——社会派ミステリという位置の創出」日本社会学会第94回, 2021年11月	
「探偵小説専門誌の研究」日本社会学会第95回, 2022年11月, 於追手門学院大学	
研究報告書・翻訳など	
特記すべき事項	

ふりがな 氏 名	こぐれ みな 木暮 美菜		
専攻	社会学		
社会学	2020年	3月	社会学 修士学位取得（法政大学）
	2023年	3月	社会学 博士学位取得（法政大学）
所属学会	日本経営システム学会, 日本マーケティング学会, 地域デザイン学会, 社会学会, 社会心理学会		

学歴			
2014年	4月	法政大学社会学部メディア社会学科入学	
2018年	3月	法政大学社会学部メディア社会学科卒業	
2018年	4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 修士課程 入学	
2020年	3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 修士課程 修了	
2020年	4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 入学(現在に至る)	
職歴			
2017年	4月	消費者行動論 ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2018年	4月	演習2・演習3 ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2019年	4月	演習1 ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2019年	4月	社会調査実習 ティーチング・アシスタント	
2019年	9月	消費者行動モデリング ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2020年	4月	メディア社会学研究法A ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2020年	4月	コンピュータ入門 ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2020年	9月	メディア社会学研究法B ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2020年	9月	マーケティング実践 ティーチング・アシスタント(～2021年度)	
2020年	9月	プログラミング入門 ティーチング・アシスタント(～2021年度)	

著書	
諸上茂光, 木暮美菜「第4章 トポスとゾーンの関係性を捉えたコンステレーションデザインの新机軸」『地域価値発現モデル～ZTCAデザインモデルの進化方向～』原田保・石川和男・福田康典編著, 学文社, pp.85-103, 2021	
諸上茂光, 木暮美菜「第4章 小説を活用した黒部地域のコンテキスト転換」『地域マーケティングのコンテキスト転換-コンステレーションのためのSSRモデル-』原田保・石川和男・小川雅司編著, 学文社, pp.90-106, 2019	
堀川三郎, 木暮美菜編著『都市ガバナンスの社会的実証研究(7)2019年度法政大学社会学部社会調査実習報告書』, 法政大学社会学部社会調査実習質, 2020	
学術論文(うち査読付き7編)	

木暮美菜「ソーシャルメディアにおける価値共創メカニズム」2022年度法政大学大学院社会学研究科博士学位論文, 2023
木暮美菜「インターネットの発展によるコミュニケーションの変容」2019年度法政大学大学院社会学研究科修士学位論文, 2020
木暮美菜, 諸上茂光「インスタ映え投稿に対する羨望と妬みが購買意思決定に与える影響」日本経営システム学会, 39(2), pp. 63-69, 2024
木暮美菜, 諸上茂光, 「悪い口コミと企業の返信が消費者に与える心理的影響の分析」日本経営システム学会40周年記念誌, 2022
木暮美菜, 諸上茂光『口コミ閲覧による自己の行動変容の類推が行動変容促進型商品の評価に与える影響』日本マーケティング学会, マーケティングレビュー2, 2021
諸上茂光, 木暮美菜『コンテキストによるゾーンの可変的定義モデル』地域デザイン学会誌, 18, pp.169-186, 2021
木暮美菜, 諸上茂光『SNSにおけるインスタ映え消費の共有動機の解明』日本経営システム学会誌, 38(2), pp.55-64, 2021
諸上茂光, 木暮美菜『よい地域ブランディングを考える-ポートランドの甘く優しいアンコから得たヒント-』社会志林, 68(3), pp.31-40, 2021
諸上茂光, 木暮美菜『地域ブランディングにおけるコンテキスト構造のモデル化』地域デザイン学会誌, 15, pp.39-57, 2020
木暮美菜『インターネットの発展によるコミュニケーションの変容-口コミサイトにおける中間領域行動を中心に-』法政大学大学院修士論文, 2020
木暮美菜, 諸上茂光『悪い口コミに対する企業の返信が他の購買検討者に与える心理的影響の検証』日本経営システム学会誌, 37(1), pp.15-22, 2020
木暮美菜, 諸上茂光『情動の社会的共有動機に着目した悪い口コミへの適切な返信内容の検討』日本経営システム学会誌, 36(2), pp.127-136, 2019
Mina KOGURE, Shigemitsu MOROKAMI, "Analyzing the effectiveness of suppliers' empathetic responses for negative comments on viral websites", International Journal of Japan Association for Management Systems, Vol11 (1), pp.7-12, 2019
学会発表・招待講演
木暮美菜, 諸上茂光『悪い口コミを行う消費者の動機に注目した適切な返信の共感性について』第57回日本経営システム学会全国研究発表大会(於札幌大学 2016年10月16日)
木暮美菜, 諸上茂光『悪い口コミを行う消費者の動機に注目した適切な返信の共感性について』日本経営システム学会経営モデル研究部会2016年度第5回研究部会(於東海大学 2016年12月3日)
木暮美菜, 諸上茂光『悪い口コミに対する返信の共感性がサービスの満足度評価に与える影響の分析』第58回日本経営システム学会全国研究発表大会(於東京経済大学 2017年5月27日)
木暮美菜, 諸上茂光『悪い口コミに対する企業の返信が他の購買検討者に与える心理的影響の検証』第60回日本経営システム学会全国研究発表大会(於横浜商科大学 2018年5月27日)
諸上茂光, 木暮美菜『地域ブランディングにおけるコンテキストの構造と役割について』地域デザイン学会第7回全国大会(於専修大学 2018年9月1日)

Mina KOGURE, Shigemitsu MOROKAMI, "Effective replies to negative online comments considering customers' motivations - Comparison between Japanese and Thai-", 18 th International Marketing Trends Conference 2019, Venice International University 2019年1月19日(査読付き国際会議・口頭発表)

木暮美菜、諸上茂光『「インスタ映え」する消費及び投稿を好む消費者の動機の解明』
第62回日本経営システム学会全国研究発表大会(於新潟国際情報大学 2019年5月25日)

諸上茂光、木暮美菜『地域ブランド価値評価モデルの実証的研究』
地域デザイン学会第8回全国大会(於東海大学代々木キャンパス 2019年8月31日)

木暮美菜、諸上茂光『ソーシャルネット時代における事前期待更新モデルの検討—期待を形成する情報のエントロピーに着目して—』第7回マーケティングカンファレンス2019(於法政大学市ヶ谷キャンパス 2019年10月20日)

木暮美菜、諸上茂光『投稿者に対する共感が「インスタ映え」消費者への評価に与える影響』
第63回日本経営システム学会全国研究発表大会(於神戸学院大学ポートアイランドキャンパス 2019年11月10日)

木暮美菜、諸上茂光『消費者の独自性欲求がインスタ映え画像の投稿意向に与える影響』
第64回日本経営システム学会全国研究発表大会(2020年5月23日)

木暮美菜、諸上茂光『ロコミ閲覧による自己の行動変容の類推が行動変容促進型商品の評価に与える影響』
第8回日本マーケティング学会2020(2020年10月18日於法政大学市谷キャンパス)査読あり

木暮美菜、諸上茂光『悪いロコミと企業の返信が消費者に与える心理的影響の分析』日本経営システム学会経営モデル研究部会2020年度第1回研究部会(2020年11月7日)

木暮美菜、泉重樹、諸上茂光『オンラインフィットネスにおけるダンスサイズのコンテクスト効果』
第65回日本経営システム学会全国研究発表大会(2020年11月22日於立命館大学大阪いばらきキャンパス)

木暮美菜、諸上茂光『ダイエットロコミが閲覧者評価に与える影響』、
国立情報学研究所ユーザフォーラム2020(2020年11月24日)

諸上茂光、木暮美菜『コンステレーションとゾーンの関係性に対する心理学的考察』
地域デザイン学会第1回ZTCAデザインモデル研究フォーラム(2021年6月19日)

諸上茂光、木暮美菜『地域デザインにおけるゾーンの可変的定義の提案』
地域デザイン学会第10回全国大会(2021年9月11日)

木暮美菜『自己奉仕バイアスが行動変容促進型商品の利用継続に与える影響』
第9回マーケティングカンファレンス2021(於法政大学市ヶ谷キャンパス 2021年10月17日)

木暮美菜『ソーシャルメディアにおける苦情対応の効果-複数の消費者の心理に着目して-』
第94回日本社会学会大会(2021年11月13日)

木暮美菜『ダイエットロコミが閲覧者評価に与える影響』
国立情報学研究所ユーザフォーラム2021(2021年11月22日)

木暮美菜、諸上茂光『努力が影響する製品に対するロコミ閲覧者の製品評価-ダイエット器具とダイエットサプリのロコミを比較して-』第67回日本経営システム学会全国研究発表大会(2021年11月28日)

諸上茂光・木暮美菜『地域空間の選択的認識が浮かび上がらせるトポスの意義』第3回ZTCAデザインモデル研究フォーラム(2022年4月16日)

木暮美菜・諸上茂光『ソーシャルメディアによる期待の形成と満足の関係』第69回日本経営システム学会全国研究発表大会(於釧路公立大学 2022年10月2日)

諸上茂光・木暮美菜「ZTCAモデルにおけるトポスのコンテクスト的理解」地域デザイン学会 関東東海地域部会第20回研究会(2022年11月12日)

研究報告書・翻訳など

特記すべき事項

第57回 日本経営システム学会 学生研究発表優秀賞

法政大学 若手研究者共同研究プロジェクト採択(2020年度～2022年度)

日本経営システム学会2019年度論文奨励賞

日本マーケティング学会カンファレンス2020ベストオーラルペーパー賞

国立情報学研究所ユーザフォーラム2020奨励賞

ふりがな 氏 名	よ い 余 偉
専攻	メディア学
2017 年 9 月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本メディア学会

学歴	
2015年 4月	南京師範大学新聞与伝播学院広播電視編導専攻卒業
2019年 9月	法政大学大学院社会学研究科メディアコース修士課程修了
2020年 4月	法政大学大学院社会学研究科博士後期課程入学(現在に至る)
年 月	
年 月	
職歴	
年 月	
年 月	

著書
学術論文(うち査読付き2編)
「『責任』の社会的構築: マス・メディア言説における責任帰属の一考察」修士学位論文、2019年
「『責任』の社会的構築: マス・メディア言説における責任帰属の一考察」『マス・コミュニケーション研究』98号、2021年、pp. 87-105(査読あり)
「メディアによる責任帰属のレトリック: 新聞社説が論じる福島原発事故の責任を事例に」『社会志林』69巻1号、2022年、pp. 41-64(査読あり)
学会発表・招待講演
「『責任』の社会的構築: マス・メディア言説における責任帰属の一考察」日本マス・コミュニケーション学会2020年春季大会、於オンライン、2020年6月
「メディアが『責任』を語る時: 新聞社説による福島原発事故に関する責任帰属の一考察」日本マス・コミュニケーション学会2021年春季大会、於オンライン、2021年6月
「解説委員による原発事故の責任帰属: NHKの『時論公論』を中心に」日本メディア学会2022年秋季大会、於オンライン、2022年11月
研究報告書・翻訳など
特記すべき事項
日本メディア学会第10回優秀論文賞(2022年6月)